

学校設定科目における体験的な学習形態の研究
ゲストティーチャーの活用

立 高等学校 (家庭科)

1 はじめに

本校では2006年度から単位制を導入し、生徒が自分の進路や学問的興味関心に応じた授業を選択し、個々のカリキュラムを組むことになった。それにともない必修科目の単位数は大幅に縮小され、家庭総合4単位も家庭基礎2単位となった。しかし、2年次以降は従来の被服、フードデザインといった選択科目に加え、学校設定科目として「家庭総合研究」を設置できることになり、さらには一講座20人での展開が可能になった。そこで「家庭総合研究」では、家庭基礎2単位では十分に指導することのできなかつた実習を多く取り入れること、さらには少人数でこそ可能となる体験学習の導入や生徒の自主性を重んじた課題研究を取り入れたいと考えている。

本研究では、従来の家庭総合で取り入れていた保育所実習に加え、地域の子育て中の親子や高齢者にゲストティーチャーとして授業に参加していただくことにより、受身の講義や視聴覚教材だけでは伝わらない現代社会における子育てや高齢者をめぐる状況について理解し、自らの考えを深められるような授業展開を試みた。現代社会の生活をめぐるさまざまな問題をのりこえて、生徒が主体的に選択し、行動する自立した生活者となることを目標とする。

2 研究計画

- (1) 本校生徒の状況
- (2) 指導内容の検討と計画
 - ア 1年次 家庭基礎の学習内容
 - イ 2年次 「家庭総合研究」の指導内容及び計画
 - ウ 保育分野の指導計画
 - エ 高齢者福祉分野の指導計画
- (3) 授業実践
 - ア 保育分野における授業実践
 - イ 高齢者福祉分野における授業実践
- (4) 考察と今後の課題

3 研究内容

(1) 本校生徒の状況

本校は県内で二校ある国際高校のうちの一校で、1学年が普通科4クラス、国際教養科3クラスで構成される。女子が多く、英語教育に力を入れ文部科学省のSELHi(スーパー・イングリッシュ・ハイスクール)にも指定されている。多くの生徒が大学進学を目指し、学習に真面目に取り組み、学校行事などにも積極的に参加する生徒が多い。しかし、近年は部活動の加入率が低下し、そのかわりに放課後はアルバイトをする生徒も多くなっており、授業態度や成績において心配な生徒も若干見られる。

単位制の授業が始まり、全ての授業が移動教室になるので当初は戸惑いも見られたが、自ら教室へ出向くことによって授業への積極的な態度が養われた。また、何より自分が選択して受講しているため、教科への期待も高い。

(2) 指導内容の検討と計画

ア 1年次 家庭基礎の学習内容

学期	月	学習項目	学習内容
前期	4	精神的・経済的な自立をめざして 1. 人の一生と家族家庭	一人暮らしにかかる費用とアパート選び 職業と収入 人生にかかる費用(結婚・子育て)
	5	2. 消費生活と環境	住宅の見方と選び方とローンの仕組み・自己破産
	6	3. 住生活と家族の健康	高齢者の気持ちと介護・介護保険の仕組み(福祉)
	7	4. 高齢者福祉	人生設計
	8	生活の自立をめざして 1. 食生活と家族の健康(1)	ディベートでライフステージの課題について考える (一人暮らし・結婚・性別役割分担・介護)
	9	2. ホームプロジェクト	食事の大切さと栄養の基礎 食品衛生 ホームプロジェクト計画(実施は夏休みの課題) ホームプロジェクト発表
後期	10	3. 衣生活と家族の健康	衣服の素材と扱い方
	11	4. 食生活と家族の健康(2)	エプロンの製作
	12		栄養のバランスと献立(栄養価計算・献立作成)
	1	精神的な自立を目指して	調理の基本(調理実習 5回)
	2	1. 保育	子どもの発達と親の役割
3		子どもの福祉	

イ 2年次 「家庭総合研究」の学習内容及び計画

学期	月	学習項目	学習内容
前期	4	食生活の科学と文化	五大栄養素の働き
	5	主体的に食生活を営むために	食の安全と食品衛生
	6		各食品の栄養と文化(調べ学習)・発表(冊子作り)
	7		調理実習(献立実習)
8	(夏休み課題 生活に関連する新聞記事の切り抜き)		
後期	9	子どもをめぐる状況	性別役割を超えた家族・家庭の創設
	10	(韓国の食について)	乳幼児の発達, 生活, 養護
	11		(番外) 韓国の食について, 講義と調理実習
	12		子育てと子どもの福祉(ゲストティーチャー)
	12	高齢者とともに	幼児とのふれあい・児童文化(保育所実習)
	1	(日本の食について)	加齢にともなう心身の変化
	2		高齢者の生活実態と福祉(ゲストティーチャー)
3	(番外) 正月料理の調理実習		
1	(冬休み課題 生活に関連する新聞記事の切り抜き)		
2	各自のテーマ決定, 調べ学習		
3	課題研究	発表	

ウ 保育分野の指導計画（10時間）

- 目標
- ・乳幼児の心身の特徴，養護の方法を知るとともに，保育者の立場に立って子育て全般について理解する。
 - ・家庭における人間関係や家事労働のあり方について積極的に考え，自分にとってよりよい子育て環境としての家庭像を模索する態度を養う
 - ・子育てについての今日的課題を知り，自分の問題として捉え行動する実践的態度を養う

学習内容	時	学習活動	評価
性別役割を超えた家族・家庭の創設	2	1. VTR「アットホームグッド」視聴 性別役割分担・職業労働と家事労働について考える 2. 論題「家事や子育ては女性がすべきである」について，グループ討論とジェンダー理解	<input type="checkbox"/> 思 家庭生活における家事労働のありかたについて，人の意見やVTRをもとに考えることができたか。 <input type="checkbox"/> 関 子育てを含む家事労働や家庭生活について，自分自身の問題として考えることができたか
乳幼児の発達，生活，養護	2	1. VTR「乳児の保育と生活」・講義（ワークシート） ・ゲストティーチャーへの質問準備 2. VTR「さくらんぼぼうや」・講義（ワークシート）	<input type="checkbox"/> 知 乳幼児の心身の特徴，生活，養護について理解できたか <input type="checkbox"/> 思関 乳幼児に対する関心が高まり，ゲストティーチャーへの質問事項を積極的に考えることができたか
子育てと子どもの福祉（ゲストティーチャー） 実践事例1	1 1	ゲストティーチャー 1歳未満の乳児と父母にインタビュー形式での交流 ・宿題（レポート作成） 事後のまとめ グループごとに主な質問と答えについてまとめ，全体に発表する	<input type="checkbox"/> 思 前時までの学習を生かし，乳幼児を観察する事ができたか <input type="checkbox"/> 関 積極的にお母さん方に質問し乳幼児と関わる事ができたか <input type="checkbox"/> 知 乳幼児の心身の特徴，生活，子育てを知ることができたか <input type="checkbox"/> 思関 グループ内発表により，子育てへの理解を深めることができたか
幼児とのふれあい・児童文化 保育所実習 実践事例2	4	1.（保育所実習） 幼児との交流，観察（幼児・保育士・施設設備） 2. 児童文化（子どもの遊び研究，絵本の読み聞かせ） 3.（保育所実習） ・宿題（レポート作成）	<input type="checkbox"/> 知 幼児の心身の特徴・能力について知ることができたか <input type="checkbox"/> 関 積極的に参加できたか <input type="checkbox"/> 技 絵本の読み聞かせが上手にできたか <input type="checkbox"/> 知 幼児に接するときの留意点を理解したか <input type="checkbox"/> 思 保育の重要性を考えられたか <input type="checkbox"/> 知 幼児が育つ環境について理解したか

エ 高齢者福祉分野の指導計画（3時間）

- 目標 ・加齢にともなう身体機能の変化について理解し，シニア体験などを通して高齢者の身体状況の理解を深める。
- ・高齢者へのインタビューを通して，高齢社会のあり方を考えるとともに，自分自身の将来の生き方について考える。

学習内容	時	学習活動	評価
加齢に伴う心身の変化	2	1. 加齢にともなう心身の変化（講義） 2. シニア体験	<input type="checkbox"/> 知 高齢者の心身の特徴を理解出来たか <input type="checkbox"/> 関 積極的に参加できたか
高齢者の社会参加 実践事例 3	1	1. 高齢者の社会参加についてインタビューを通じて活動状況を知る	<input type="checkbox"/> 知 高齢者の活動状況を理解出来たか <input type="checkbox"/> 関 積極的に参加できたか <input type="checkbox"/> 思 自分の生き方について考えたか

（3）授業実践

ア 保育分野における授業実践

（ア）事前アンケート調査 家庭総合研究選択者（40人対象 女子37名男子3名）

保育分野の授業に入る前に，生徒自身の幼児との関わりを知るために以下のような，アンケート調査を行った。

Q1.きょうだいを含めて何人ですか？また，あなたは何番目ですか？

1人っ子 2人 2人 20人 3人 17人 4人 1人

Q2.小さい頃，弟や妹，年下のいとこなどと遊びましたか？

いつも遊んだ 22名 時々 7名 あまり遊ばなかった 11名

Q3.幼稚園か保育園に行きましたか？ 幼稚園 38人 保育園 2人

Q4.赤ちゃんを抱いたことはありますか？ ある 29人 ない 11人

Q5.赤ちゃんの世話をしたことがありますか？ 世話をしたことがある 16人

おむつ交換（9） ミルクの用意（3） ミルクを飲ませる（10）

お風呂に入れる（2） 着替えさせる（7） 寝かしつける（6） 遊ぶ（15）

【考察】

このクラスは2～3人きょうだいが圧倒的に多く，その内年下の弟妹がいるのは16人であった。Q2で「あまり遊ばなかった 11人」はいずれも末っ子である。おそらく，きょうだい同士はよく遊んだであろうと推測でき，異年齢間での遊びのある中で育ってきた生徒達であることが予測される。赤ちゃんを抱いた事のある生徒は7割強，世話をした事のある生徒も4割いる。世話をした事のある生徒16人の内7人は2人きょうだいの末っ子であり，きょうだい以外の赤ちゃんの世話をした事があるという事である。

一方，全く赤ちゃんに触れあったことのない生徒も4分の1おり，今後きょうだいの数の減少とともにこのような生徒も増えていくものと思われる。

（イ）実践事例1 子育てと子どもの福祉（ゲストティーチャー）

a ゲストティーチャー探し

まず，松戸市の子育て支援センター3箇所に依頼文書を送り，本校に来ていただける親子を募集した。しかし，本校までの交通の便が悪いことと日程調整が非常に困難だったことから多くの参加者を募ることは難しく2組の親子にとどまった。

以下に子育て支援センターへの送付文書を示す。

ゲストティーチャーのお願い

ようやく秋の気配が感じられる頃となりました。皆さまにおきましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、松戸国際高校の家庭科の授業では、毎年保育分野の学習の一環として生徒全員が近所にある松飛台保育所で保育実習を体験させてもらっています。日頃、接することのない乳幼児と直接ふれあうことで、あらためてかわいさを実感したり、多くのことを発見し幼児への理解を深めるなど、たいへん得るもの大きい機会であると考えています。しかしながら、保育所での交流の多くは3～5歳の幼児に限られることが多く、できれば1歳未満の赤ちゃんの生活や特徴に触れる機会を与えられないものかと考えました。

そこで、本年度は子育て中のお母さんやお父さんに、赤ちゃんとともに本校においていただき、インタビュー形式での生徒との交流ができないものかと考え、以下のように計画しました。

子育てママ・パパとの交流会

目的： 乳児の一日の生活の様子について具体的に知る
 子育て中の苦労、そして喜びなどを具体的に知る
 赤ちゃんが生まれるまでの妊婦としての実感、そして家族の配慮などを知る
 子育てをするにあたって、地域の子育て支援の内容等について聞き、子育てしやすい社会のあり方について考える
 以上の事柄以外に疑問に思っていること等を質問し、生徒一人一人が子育ての全体像をイメージし、理解を深める

受講生徒：家庭総合研究選択者 組 28名(男子2名 女子26名)
 組 21名(男子1名 女子20名)
 組 20名(男子1名 女子19名)

実施方法： 1. 事前に質問したい内容をおいでいただき皆さんにお知らせする
 2. 当日は生徒4人程度のグループに対し1組の親子に入ってもらう。
 3. インタビュー形式で、生徒のほうからいろいろ質問をさせていただく
 4. 最後に生徒から、謝辞とともに感想を述べる

実施時期：10月下旬～11月上旬

次に知り合いの子育て中の方に依頼した。直接の依頼で4組の方が応じてくれて、更にその中の2組の人はそれぞれ6組の子育て仲間を集めてくれた。

b 事前指導(2時間)

1時間目：VTR「乳児の保育と生活」の視聴により乳児の生活について理解させると共に、興味関心を喚起させたあと、お母さん方への質問用紙配布。

2時間目：VTR「さくらんぼ坊や」視聴により幼児期心身の特徴及び生活を知る。

前時配布の質問用紙に質問事項記入

質問例

(お母さん自身に対しての質問)

- ・ 子育てで、自分自身が変わった、成長したことは？
- ・ 妊娠から出産後に体重はどのくらい増えて、どのくらいの期間で元にもどるのですか？
- ・ 出産の時は、鼻からスイカが出るくらい痛いですか？ 出産時の痛みをたとえると？

(赤ちゃんのいる生活についての質問)

- ・ 赤ちゃんを育てていく上で一番たいへんなこと、辛いことは何ですか？

- ・ 赤ちゃんが生まれてからお母さんの生活はどのように変わりましたか？
- ・ 親にならないとわからないことってありますか？ 親になってわかったことは何ですか？
- ・ 1ヶ月に子どもにどれくらいのお金がかかりますか？
- ・ 家事育児などで「これは是非、夫にやって欲しい」ということはありますか？

(赤ちゃんについての質問)

- ・ 赤ちゃんは起きている時、どんなことをして遊んだりしているのか(何をしてるのか)
- ・ 一番始めにしゃべった言葉は何ですか？



c ゲストティーチャーを招いた授業(1時間)

(a) 3クラスの実施日及び生徒・参加者内訳

実施日	2007年11月8日(木) 第4校時	2007年11月8日(木) 第5校時	2007年11月9日(金) 第4校時
生徒内訳	Aクラス 生徒26名(内 男子2名)	Bクラス 生徒20名(全 女子)	Cクラス 生徒20名(内 男子1名)
赤ちゃんの月年齢・性別	男 女	男 女	男 女
生後1ヶ月～1ヶ月半	1人 2人	1人 1人	
3～4ヶ月		2人	
6～7ヶ月			5人
8～9ヶ月	2人 2人	2人 2人	1人 2人
1歳		1人	
1歳半	1人		
2歳半	1人		
参加親子 計	10組 * (内1組は双子)	10組 * (内1組は双子)	8組

*AクラスとBクラスは同日午前と午後に実施のため同一親子

(b) 本時の学習展開(1時間) 展開教室：本校合宿施設(和室 40畳)

段階	学習活動	指導上の留意点	時間
導入	全体会として、お母さんと赤ちゃんの紹介をする	服装は清潔なジャージ 念入りに手洗いしておく	10分
展開	1. 生徒は6～8人のグループに分かれる。 2. 1グループに2～3組の親子に入ってもらいインタビュー形式で交流する   各グループ内に司会を配置する		35分
	(全体会) 生徒代表からお礼のことばを述べる	次時まで感想文を書いてくる	5分

d 事後のまとめ（1時間）

1. 班内で各自の感想等を発表する。
2. 班ごとに質問事項やそれに対する回答，主な感想などをまとめる。
3. 全体に発表(スクリーンで当日の写真を写す)他の班の赤ちゃんやお母さんについて聞く。

e 生徒の感想

「今までは生まれるときに痛いのだと思っていたのに話を聞いたら，陣痛の方が全然痛いと聞いてすごくびっくりしました。」「一番驚いたのは，つわりの話で，みんなにあるものだと思っていたけど，くんのお母さんはつわりがなく普通に仕事をしていたとっていた。」

「陣痛の痛み，辛さがお母さん方の表情から痛感しました。」「子どもを産むときは帝王切開がいいなあと思ったけど，麻酔が効かないなんていやだ！」

「どのお母さんも“生まれてきてありがとう”という気持ちがあって，出産は人生でとても重要なことだと改めて思い知らされました。」「お母さんたちの幸せそうな顔を見ていたら，早く子ども欲しいなあって思った。」「出産はやっぱり大変そうで...少し怖いなあと思ってしまった。でもお母さん達の顔を見たら幸せそうで，うらやましく思った。」「皆さんが口をそろえて言っていたのは“たいへんだけど，子どもの笑顔を見るとそのたいへんな気持ちが吹き飛ばす”

「とにかくちっちゃい。各パーツが小さい！でも3ヶ月の子を見たあと1年の子を見るとかなり大きくなっていることにびっくり。9ヶ月でこんなに大きくなるのか。」「私たちの見た育児のイメージとママ達が実際に体験している生活は違っていることが多くて勉強になりました。」

「将来自分が父親になったときとか，母親の気持ちとか辛さとかわかってあげないといけないんだなって思った。マタニティブルーとかも，自分が何ができるのかとか考えて助けなくっちゃって思った。(男子)」

f 考察

(生徒の感想から)

生徒に子どもの発達の個人差が大きいことは講義で伝えているが，当事者の話を聞いて初めて実感の伴う事実として受け止めることができる。また，初めて聞く妊娠中の苦勞話も，記憶の新しい若いお母さんならではの話しぶり，表情から受け止められることが大きく効果的であった。

子どもの成長はけっして育児書通りではないということも，お母さん方の言葉から確信できたようだ。また実際に目の前にいる赤ちゃんの様子からも，「赤ちゃんでも，すでに個性がある」というように理解させることができた。現代は乳幼児に関する多くの情報が流れているが，実際に現役のおかあさん，赤ちゃんと触れあうことで，正しい認識を持たせることができたと思う。人類にとって普遍的なこと，大切なこととして子どもを授かることの尊さ，そして親のありがたさを感じることができたようだ。また，体験前にはただ弱い存在としか受け止められていなかった子どもが，力強さ，生命力についてたくましさを持っていることも知った。

ちょっと目を離れた際に起こった幼児の事故をニュースなどで見聞きするが，その際親に対する世間の批判は付きものである。しかし，やってみなければわからない子育ての苦勞を高校生のうちに実感することは，子育てをめぐる諸条件，社会のしくみ，福祉のあり方を考える大きなきっかけになるのではないだろうか。

選択授業で男子生徒が少ないため、父親の育児参加の様子についての質問回答が深められなかったのが残念であった。しかし男子生徒自身は、夫の支えの大切さを理解し、子育ては母親一人に任せていいものではないことを実感しているようであった。「土日に（夫が）子どもを見てくれるので少し自分の時間を作れるのが助かる」ように、夫の協力が不可欠なことも実感できたと思う。

生徒達のゲストティーチャーに対する対応も多様で、積極的に質問したり赤ちゃんを抱かせてもらう子がいる一方で、緊張してしまって打ち解けるまでに時間のかかってしまう生徒もいた。しかしそういう生徒ほど、メモは丁寧に書いてあるので、事後の班内でのまとめにおいて役立てることができた。

質問の中には「もらってうれしいものは、ベビーカーとお金とおもちゃで、洋服は趣味があるので困るということでした。」や「紙おむつより布オムツの方が安い」「ミルクは母乳の方が経済的で、出産後やせやすい体になる。母乳を出やすくするには、ぞうきんがけなど、胸筋を使うといい。」など、若者同士（高校生と若いお母さん）の会話らしく、ほほえましいものもあった。

（お母さんの感想から）

お母さん方からの感想

「10代なのに妊娠や出産のことについて興味津々で、質問されるごとに「へえー」と驚きの表情を見せてくれたことが新鮮でした。」「時間があつという間でした」「男の子が参加していたので、とてもよいと思いました。」

「とても貴重な時間でした。生徒さん方もとても礼儀正しく、雰囲気もよく、こちらも楽しかったです。また、このような機会があれば是非参加したいです」「高校生の質問は面白かったです」

「自分が産む前に赤ちゃんと接する機会がなかったので、このような授業はすごくうらやましく自分も受けたいかったです。」

「少子化対策とは、国や自治体からの支援だけでなく、皆で子どもを育てる、次世代を育てるという意識を持つことが大切だと思うので、このような機会があることはとてもいいことだと思います。」

今回の交流では20代のお母さん方が、「いまどきの高校生」に対しての興味関心もあったようで、お母さん方からも好意的な感想をいただくことができた。

g 子育て交流会（ゲストティーチャー）実施上の留意点や問題点

- ・ ゲストティーチャーの依頼は、校長名で正式な文書を送付し依頼した。また、保険についてはPTAで加入しているもので対応できるということで、あらかじめ入る必要はなかった。お礼は出所がなく、生徒からのお礼状、写真を送るにとどまった。

- ・ 当日の授業展開の工夫、配慮

和室を使えた事は本当によかった。実施時期も冷暖房の必要ない時期を選ぶべきである。また、赤ちゃんの体調によって参加できなくなる可能性は十分想定しておくべきで、今回も赤ちゃんの体調不良で1組参加できなかった。

今回は、配慮不足で玩具や絵本のようなものを用意していなかったが、生徒が赤ちゃんに関わるきっかけ作りのためにも用意しておくべきであった。

(ウ) 実践事例 2 幼児とのふれあい・児童文化(保育所実習)

a 実施状況 内容は要項の通り

2007 年度 保育実習

2007/10/4

1. 目的
- ・ 保育所を訪れて幼児を観察し触れ合うことにより、幼児期における子どもの心身の発達および、特徴についての理解を深める。
 - ・ 保育士の子どもと接する様子を観察し、幼児に接する時の留意点、保育の重要性を理解する。
 - ・ 保育所の施設設備、児童文化にも目を向け、子どもの育つ環境について重要性を理解し関心を高める。

2. 実習場所 松戸市立松飛台保育所(047-384-2421)

3. 対象生徒 千葉県立松戸国際高等学校 2年家庭総合研究選択者

4. 実施日

	第 1 回目	第 2 回目
講座	11 月 12 日(月) 4 限(11:45~12:35)	11 月 26 日(月) 4 限(11:45~12:35)
講座	11 月 27 日(火) 2 限(9:45~10:35)	12 月 4 日(火) 2 限(9:45~10:35)
講座	11 月 14 日(水) 1 限(8:45~9:35)	12 月 5 日(水) 1 限(8:45~9:35)

5. 保育園クラス構成 ひよこ 0 歳 ペンギン 1 歳 うさぎ 2 歳 パンダ 3 歳
キリン 4 歳 ゾウ 5 歳

* 今回の交流はキリンクラス、ゾウクラスのみ

6. 保育実習内容

第 1 回目: 幼児とのふれあい、観察に重点を置き、施設設備、児童文化財の見学。
保育士の先生から留意点の指導および、先生方の幼児との接し方から学ぶ

第 2 回目: 絵本の読み聞かせ等、高校生が幼児に働きかける
事前準備で、児童文化財について学習する

7. 注意事項 服装は上下ジャージ、運動靴。ピアス・指輪・ネックレス等絶対禁止!

爪は切ってくること。

持ち物: タオル ポケットに入る程度のメモ用紙・筆記用具

* 貴重品は貴重品袋に集めて、学校の事務室に預けます。(携帯電話も置いていくこと)

幼児は片腕を引っ張ったりすると、肩の関節が抜けてしまうことがあるので注意してください。

おんぶや抱っこをするときは周囲に十分注意し、幼児に怪我をさせることのないようにしてください。(肩車は禁止)

幼児は模倣の天才です。言動に十分注意し、悪い見本にならないように。

外遊びのあとは手洗い・うがいを忘れずに。

b 考察

従来は各クラス 1 回ずつの訪問であったが、今年のように 2 回訪れることにより一層、幼児の心身の特徴・生活の様子についての理解が深まった。絵本の読み聞かせ等の積極的関わりにより、幼児の観察だけでなく生徒自身が、自分の中にある幼児とのコミュニケーション力を発見し、自信になったと感想を述べるなど、自己発見にもつながった。生徒各人が得ることはさまざまであるが、関心が低いと思われた生徒ほど意外にも喜びを述べていることが印象的であり、将来の進路に関わらず誰もが経験することが望ましい実習であると感じた。

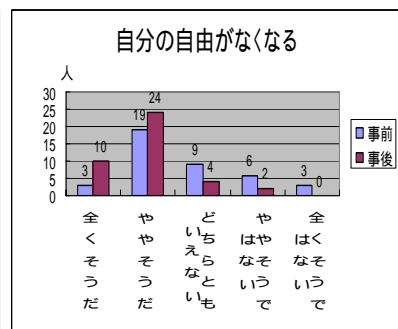
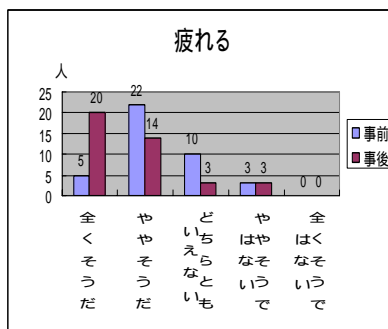
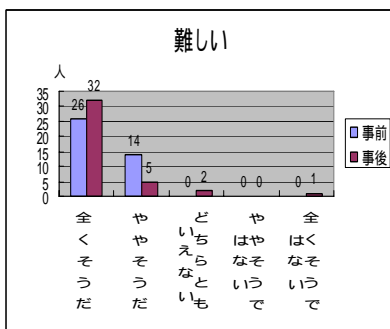
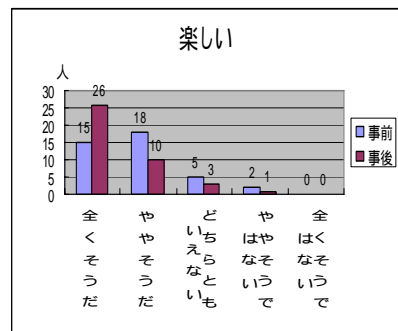
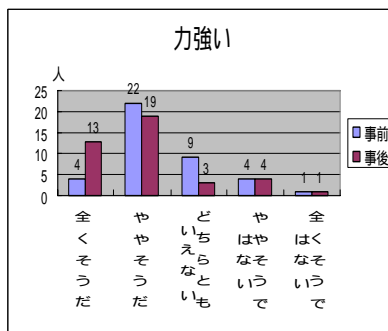
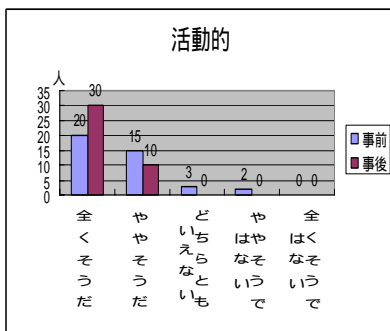


(エ) 保育分野学習後の生徒の意識変化 (アンケート調査)

「小さい子どもについてのイメージ」と「子どもを育てるということについて」アンケート調査を行い、今回の授業の事前事後での変化について調べた。

方法：イメージを表す言葉（以下参照）についてそれぞれ、「全くそうだ・ややそうだ・どちらともいえない・ややそうではない・全くそうではない」の当てはまるものを選ぶ

「小さい子どもに対するイメージ」 かわいい・うるさい・あたたかい・好き・こわれそう・こわい・小さい・面倒くさい・活動的・力強い
「子どもを育てるということについて」 社会のため・たいへん・楽しい・おもしろい・老後の保障・やりがいがある・恩返し・ 難しい・うっとうしい・疲れる・元気が出る・自分のため・不安や心配・自分の自由がなくなる



【考察】

「小さい子どもについてのイメージ」

体験学習後はどのことばについても、「ややそうだ(ではない)」の選択肢から「全くそうだ(ではない)」とイメージを断定するようになったのが、大きな変化である。やはり、直接触れあったことが、確信につながったのであろう。またイメージの変化では、「活動的」については事前にはそうではないと思っていた生徒もいたが、乳幼児とのふれあいの中で全員が活動的であると感じるようになった。また「力強い」についても同様の変化が見られた。

「子どもを育てるということ」

「楽しい」「おもしろい」が多いが、それと同数程度「たいへん」「難しい」を肯定されている。また、「自分の自由がなくなる」が55%から85%に増えており、交流を通して初めて実感を持って認識したものと考えられる。

イ 高齢者福祉における授業実践

(ア) 実践事例3 高齢者の社会参加(1時間)

学習内容	時	学習活動	評価
高齢者の生活 実態と福祉	1	3名の高齢者の方がパネラーで、パネルディスカッション形式で学習する。 テーマ「60歳からの転身、そして今」	関積極的に話を聞き、質問できたか 思高齢者の尊厳について、理解できたか

(イ) パネラーのプロフィール



Aさん(70代)
幼稚園園長を定年退職後、美容学校に入学。エステサロンを開業、がんセンター等でがん患者の方々に向き合い、美容(化粧)のボランティア活動が続ける。

Bさん(60代)
専業主婦から、良質の公演をプロデュース(音楽・映画・学術講演)し、地域に発信する「文化宅急便」を主宰しつつ、老人施設で介護の仕事に従事している。

Cさん(60代)
元公立高校家庭科教師。定年退職後小学校などで民話等の「素話・絵本読み語り」のボランティア活動をはじめ、Aさんらと共に「NPO こどもの情操教育を育てるミュージカルと語りの絵本協会」で公演活動を行っている。

(ウ) 生徒の感想

- ・3人のお話を聞いてすごくためになり、感動しました。私は今まで「将来」とか「未来」ということばを聞くと、30代、40代までの夢しか考えていませんでした。残りの人生は遊んで死ぬと簡単に適当に思っていました。また、出会いの話を聞いて3人の性格の良さ、人間としての優しさをとても感じました。汚いと思ってしまうお漏らしなどの掃除、時間をかけているんな人の化粧をする…。今の私にはこんなすばらしい行動はとれません。人のため、環境のためなんてほとんど考えたこと無かったです。
- ・将来何になるかが迷っていたけれど、やりたいものがあればいつでもできるんだなと思った。60歳で専門学校に行くのもすごいと思ったけど、若い人たちのなかに積極的に入って行って楽しめるという所もすごいなと思った。3人とも自分に出来ることを探して、人の役に立つことを進んでやっていて、将来の参考になった。
- ・「自分を大事にする」ということを大切にしていきたいです。
- ・よく高齢者の方は若い人から元気をもらえるというけれど、逆に高齢者の方から元気をもらえました。
- ・常に「やる気」や「夢」を持っているんな事に挑戦することが高齢者になっても元気でいられる要素かなあと感じました。好きなことに出会い、いろんな人との関わりの中で自分も成長し、相手も一緒に成長できるような人生を送りたいと思いました。先のことばかりでなく、今を大切にしないといけないと改めて感じました。歳をとっても、今回来て下さった3人のように元気に過ごしたいと思いました。

(エ) 考察

講演会ではなく、パネルディスカッションという形式も生徒には、新鮮であったと思う。異なる経歴をお持ちの3人のパネラーの方々のお話であったが、共通するのは高齢者といえども、活動や生き方を他者や自分自身で制限を設ける必要はなく、誰もが何歳になろうとも自分らしく生きること、そしてそのことは尊重されるべきものであることということであった。生徒自身が自らの生き方を模索し、深く考える材料を与えることとなった。

(4) 考察と今後の課題

今回、保育分野と高齢者福祉分野において地域の方々をゲストティーチャーとしておいでいただいたが、授業を実施するまでにはいろいろと思案を重ねた。

「子育て交流会」においては、当初は少人数グループのほうが打ち解けやすいのではないかと考え、生徒3人くらいのグループに1組の親子を予定していたが、それでは一人のお母さんの話がすべてと受け取りかねない危険性を子育て支援センターの方から指摘された。そこで7~8人の大きなグループになったとしても何人かのお話を聞くことのできる体制にしたがその結果、子育てや赤ちゃんの様子は多様であることを生徒は知ることができたし、また、お母さん方同士も交流が深まったようである。

高齢者福祉のゲストティーチャー探しにおいては、当初は高齢者理解(心身の特徴と生活)を通して社会福祉を考えることを目的に考えており、普通のお年寄りということを考えていた。しかし、普通の高齢者といっても何歳くらいの方をお願いするのかということや、探し始めるとさまざまな状況(健康・社会的活動等)の方々があり、高齢者と1つの枠でくくることは難しいことに今更ながら気づくこととなった。

このようにはじめての試みで、外部との交渉に費やす時間も多かったが、この過程自体が私自身多くのことを学ぶ良い機会になった。また、ゲストティーチャーとして来て下さった方々にも、今の高校生の様子を知らせることができ、地域の中での交流が深まった。

保育や高齢者福祉に限らず家庭科の授業では、あらゆる分野で地域の方々をゲストティーチャーとして活用させていただける可能性があることにあらためて気づくことができた。

今後もゲストティーチャーの活用を視野に入れた授業計画を考えていきたい。

4 おわりに

本校は単位制高校に移行し、生徒は自分の進路に応じた、あるいは興味関心の高い科目を選択して学んでいる。3割弱の生徒が家庭総合研究を選択しているが、必修家庭総合の頃と同様に実習や体験授業での取り組み状況はたいへん良好で、さらに20人程度の授業展開により、個々の生徒の学習要求に応えることが出来、学習目標到達度も高いと思われる。このような恵まれた環境を活かして、家庭科の授業を受けた生徒達が生活技術を習得することにとどまらず、現代社会におけるさまざまな問題や生き方の選択において、主体的に考える力をつけるような授業を今後も目指していきたい。

最後に、このような研究の機会を与えて下さりご指導いただいた先生方、また研究にご協力いただいた皆様方に心から感謝申し上げます。

参考資料

地域の教育資源を生かした家庭科 技術・家庭科教育について	千葉県教育センター	平成 20 年 3 月
赤ちゃんとの触れ合い体験	社団法人 全国幼児教育研究協会	平成 19 年 3 月
中・高生の楽しい育児体験	社団法人 全国幼児教育研究協会	平成 18 年 3 月